ホンダ

スノーラ

HS1190

取扱説明書

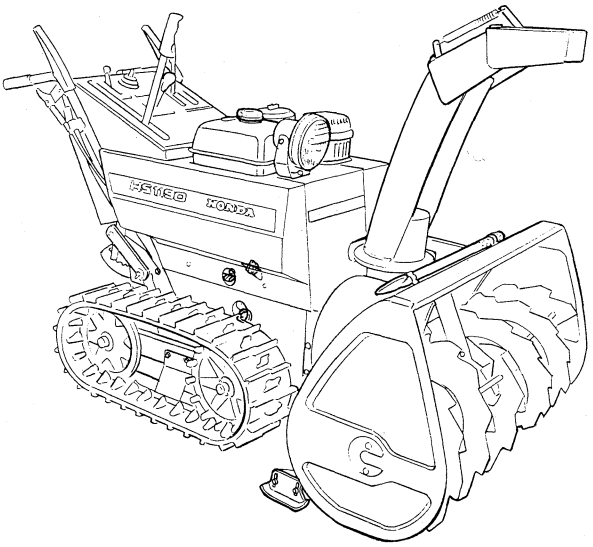
お買いあげありがとうございました。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

は　じ　め　に

この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
除雪機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
取扱説明書はわからない事があった時に読むことができるよう**大切に保管**し、日常の手引きとしてご活用ください。



安全に取扱いをしていただくために取扱説明書で (注意) マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

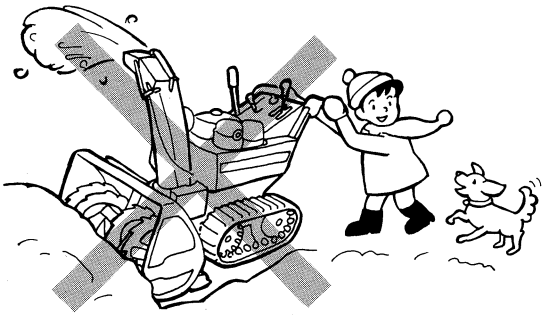
安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 8
エンジン　スイッチ …… 11
燃料コック　レバー …… 11
チョーク　ノブ …… 12
エンジン回転調整レバー …… 12
変速レバー …… 13
走行クラッチ レバー …… 13
オーガ クラッチ レバー …… 14
サイド クラッチ レバー …… 15
投雪口調整スイッチ …… 16
オーガ高さ調整レバー …… 17
スキッド・スクレーパ …… 18
雪落し棒 …… 18
作業灯 …… 19
燃料計 …… 19
エンジンをかける前に点検しましょう …… 20
ガソリンの点検 …… 20
エンジン オイルの点検 …… 21
変速機オイルの点検 …… 22
バッテリの点検 …… 24
オーガ、ブロア ロック ボルトの点検 …… 25
その他の点検 …… 25
エンジンのかけかた …… 26
運転操作のしかた …… 30
1．スキッド・スクレーパの調整 …… 30
2．始動 …… 31
3．運転操作 …… 31
4．除雪のしかた …… 35

除雪機の止めかた ……38
定期手入れを行いましょう ……41
日常点検 ……41
定期点検 ……42
やさしい点検・整備 ……43
携帯工具と付属部品 ……43
エンジン オイルの交換 ……44
点火プラグの清掃、調整 ……45
クローラ張り調整 ……46
除雪部の点検 ……47
バッテリ ……48
ヒューズについて ……50
投雪口が作動しないときは ……51
運搬する時は ……53
長期間使用しない時の手入れ ……55
故障のときは ……58
主要諸元 ……59
配線図 ……60
商品受領書
保証書

安全にお使いいただくために　これだけは

HS1190は正しく取り扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

・本機は、除雪以外の目的で使用しないでください。
・本機は私有地でご使用ください。
・この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分ご理解のうえ自分で操作してください。
・本機を子供には絶対操作させないでください。

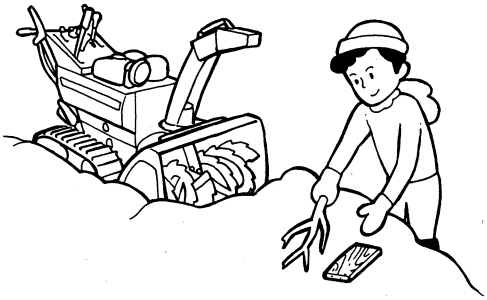


・まちがいなく取り扱う為に各種操作になれてください。
・除雪部および投雪口に雪がつまった場合は、オーガ クラッチ レバーを切り、雪の除去作業が安全におこなえる場所に本機を移動し、除雪部を路面に完全におろし、エンジンを停止し、各部の回転が停止しているのを確認してから、つまった雪を備え付けの雪落とし棒で取り除いてください。

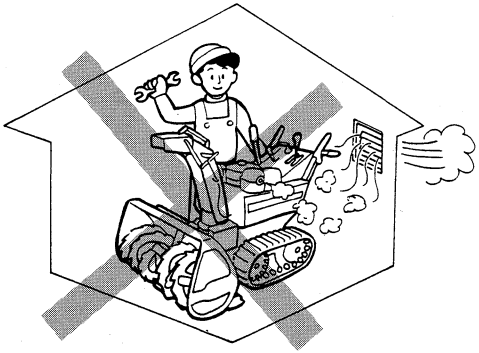


ぜ ひ 守 り ま し ょ う

・雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、石、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。



・屋根に積った雪や、足場の不安定な場所の除雪は行わないでください。
・除雪部分や投雪口は危険ですので、顔や手足を近づけないでください。
・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。



・各部の点検でカバー類を開ける際は、必ずエンジンを停止し、火傷の恐れがありますので各部が冷えるまで十分時間をおいてから開けてください。
・点検時、マフラに直接触れないように、ご注意ください。
・カバー類内に、工具、燃えやすい物等を置き忘れないように注意してください。工具、取扱説明書は、必ず所定の工具箱に収納して下さい。
・作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。

●作業を始める前に

・作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等、防寒用の身仕度をしてください。また、防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

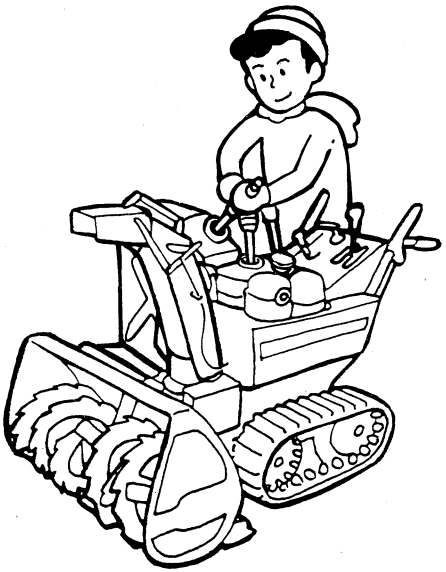
・本機の操作をおこなう場合には、必ずハンドルを持ち、中央部に位置してください。

・砂利道等の除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。

・仕業点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理を完全にしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。

・燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して火気厳禁で行ってください。

・燃料は、こぼさないように注意し、所定のレベルまで補給してください。もし、燃料がこぼれた場合には、きれいに拭き取り、乾かしてから始動してください。



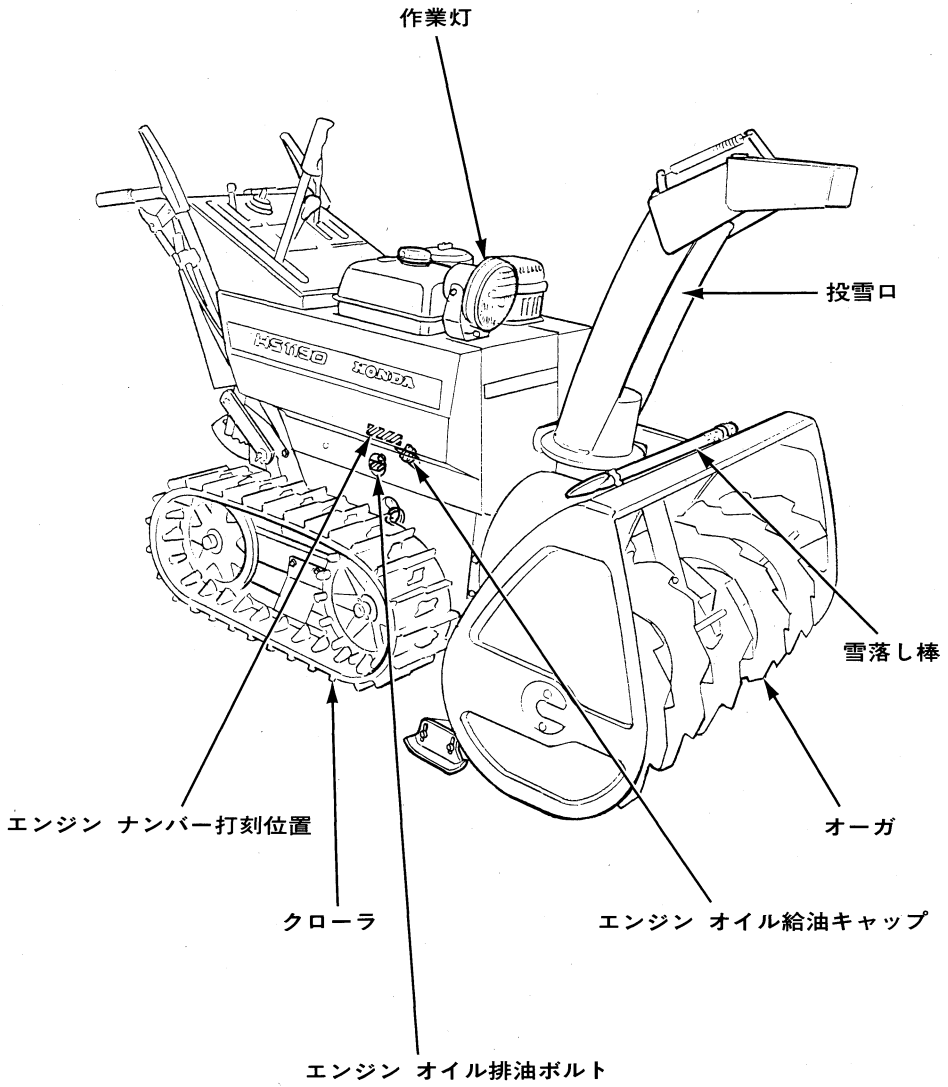
●作業中の注意

・急発進は、絶対に行わないでください。必ず変速レバーを〝N〟の位置にしてから走行クラッチレバーを握り、徐々に変速レバーを操作してください。
・方向転換時は、必ず本機を水平にし十分速度をおとして行ってください。
・共同作業は雪のためスリップし思わぬ事故を招く事があります。絶対に行わないでください。
・除雪部は回転しているので大変危険です。手、足等を絶対に近づけないようにしてください。また、人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
・投雪口は、危険ですので顔や手を絶対に近づけないでください。
・投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。
・万一、雪の中に石等の異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
・除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、けっして走らないでください。
・特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
・除雪中障害物に当たった時はすぐにエンジンを止め、回転部が停止してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
・使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店へ連絡ください。

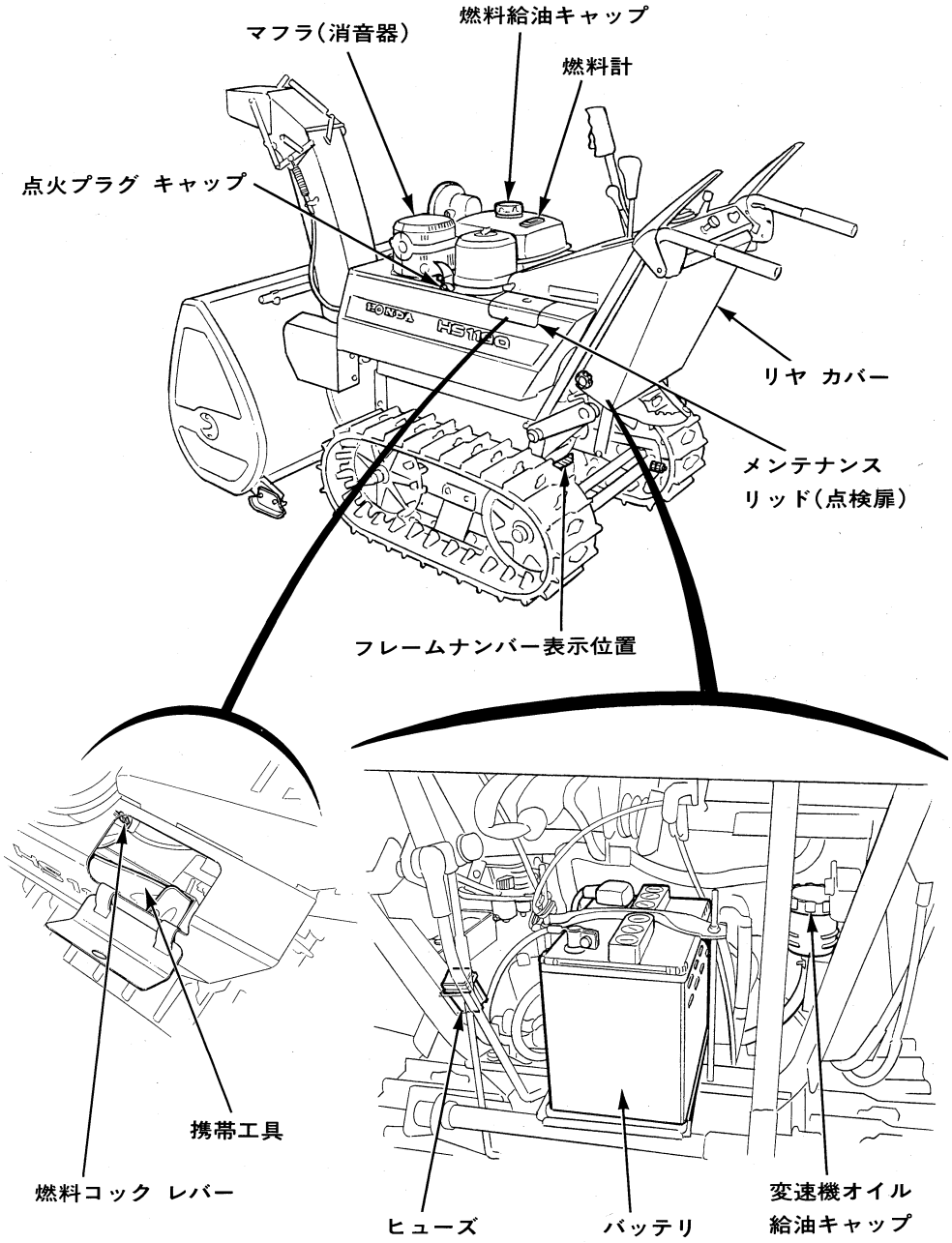
●作業が終ったら

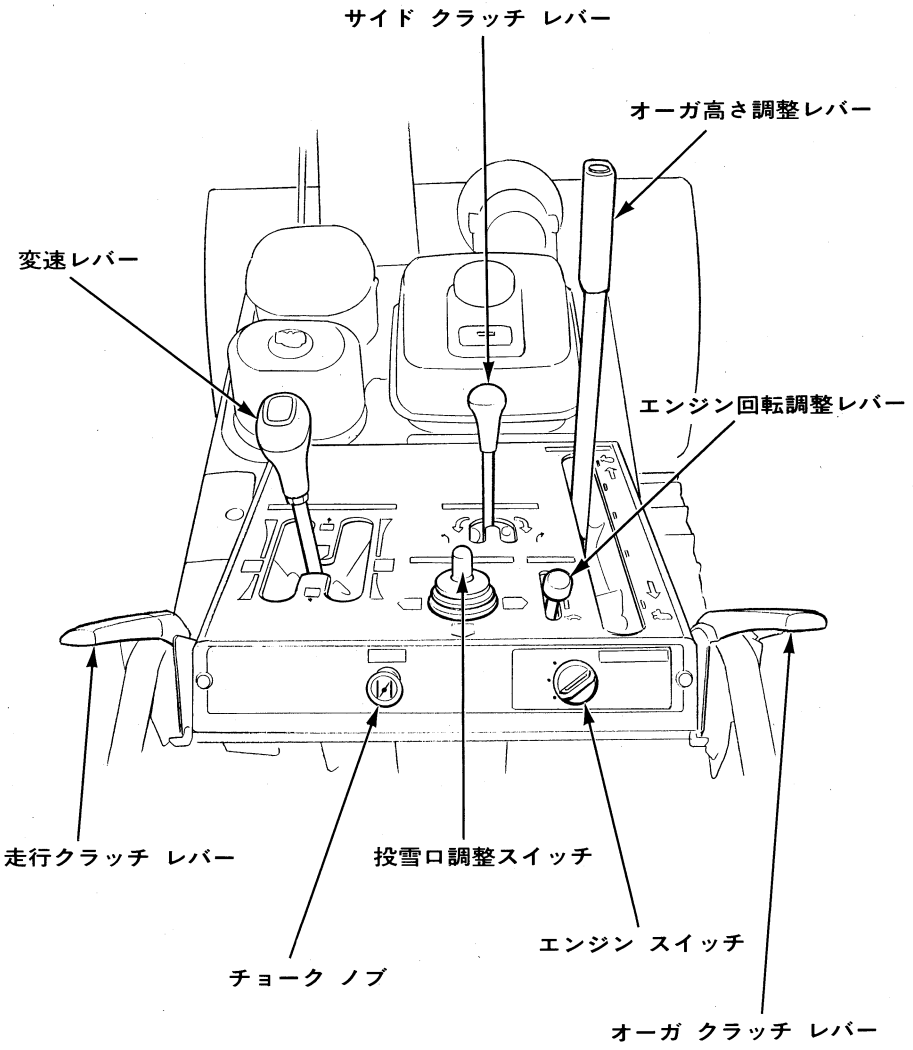
・本機から離れる時には、必ずエンジンを止め、エンジン スイッチ キーを外してください。
・長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のある所には保管しないでください。また、抜いた燃料は引火性があり、爆発の危険がありますので所定の燃料タンク等に保管してください。
・作業後は、除雪部の雪を取り除いて格納してください。
次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

各 部 の 名 称 と 取 り


作業灯
投雪口
雪落し棒
オーガ
エンジン ナンバー打刻位置
クローラ
エンジン オイル給油キャップ
エンジン オイル排油ボルト

扱いをおぼえましょう


マフラ(消音器)
燃料給油キャップ
燃料計
点火プラグ キャップ
リヤ カバー
メンテナンス
リッド(点検扉)
フレームナンバー表示位置
携帯工具
燃料コック レバー
ヒューズ
バッテリ
変速機オイル
給油キャップ


サイド クラッチ レバー
オーガ高さ調整レバー
変速レバー
エンジン回転調整レバー
走行クラッチ レバー
投雪口調整スイッチ
エンジン スイッチ
チョーク ノブ
オーガ クラッチ レバー

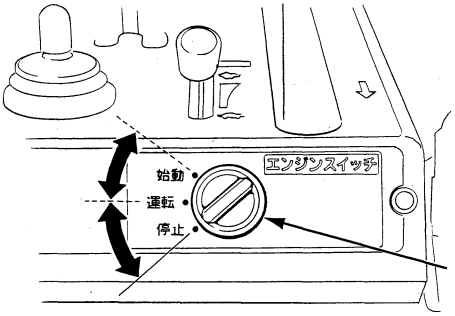
エンジン スイッチ

エンジンを始動、運転、停止させる時に操作します。

停 止…エンジンを停止する位置です。（キーの抜き取り、差しこみができます。）

運 転 …エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

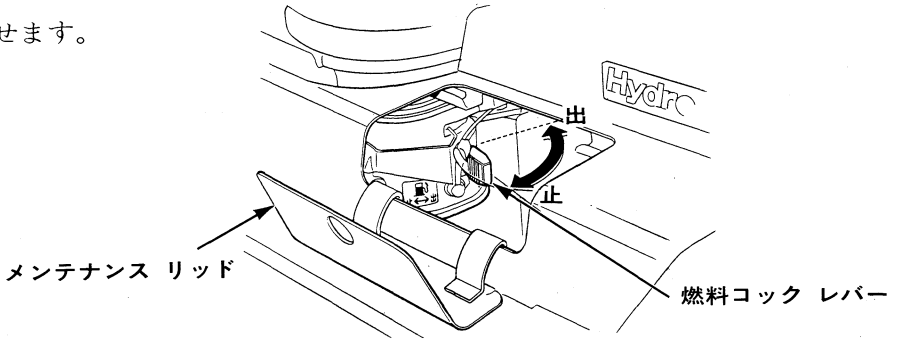
始 動 …エンジンを始動させるときこの位置まで回します。セルモータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に〝**運転**〟の位置に戻ります。



燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。

メンテナンス リッド（点検扉）を開いて、確実に〝**止**〟〝**出**〟の位置に合わせます。

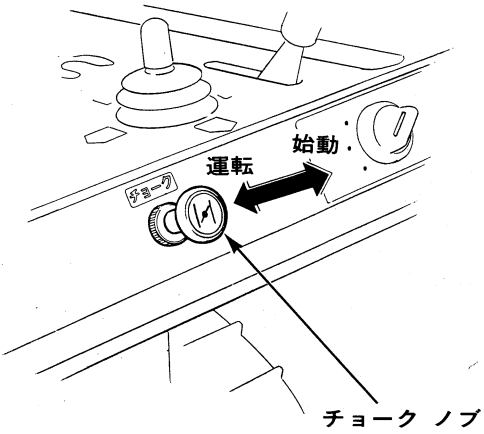


注意

- 運搬時、保管時および点検整備時に本機を傾むける時はレバーを〝止〟の位置に合わせてください。〝止〟にしないと燃料がもれることがあります。
- エンジン回転中はメンテナンス リッドを開けないでください。

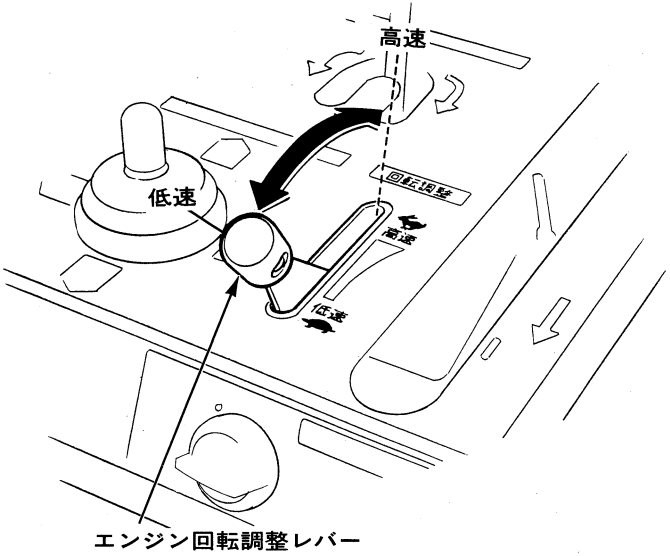
チョーク ノブ

エンジンが冷えている時に操作します。



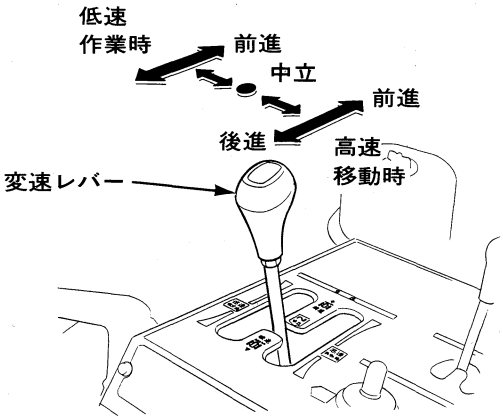
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整する時に操作します。通常は〝高速〟の位置でご使用ください。



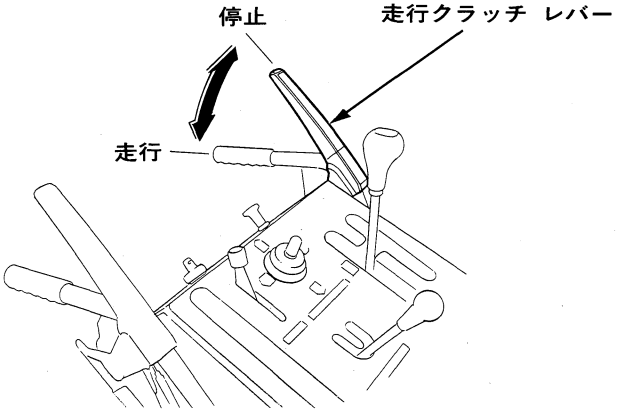
変速レバー

除雪機を前進、後進させるために操作します。
低速側(作業用)、高速側(移動用)に分かれそれぞれ、前進、後進の速度を無段階に調整することができます。
前進するときは…… 〝N〟(中立)の位置から前方へ徐々に動かします。
後進するときは…… 〝N〟(中立)の位置から後方へ徐々に動かします。
除雪機を使用しないときは 〝N〟(中立)の位置にしてください。



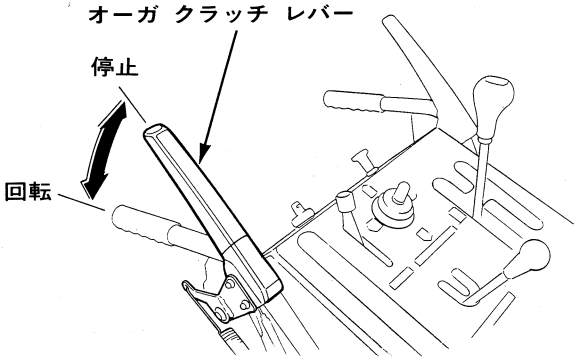
走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを握ると走行し、はなせば止まります。



オーガ クラッチ レバー

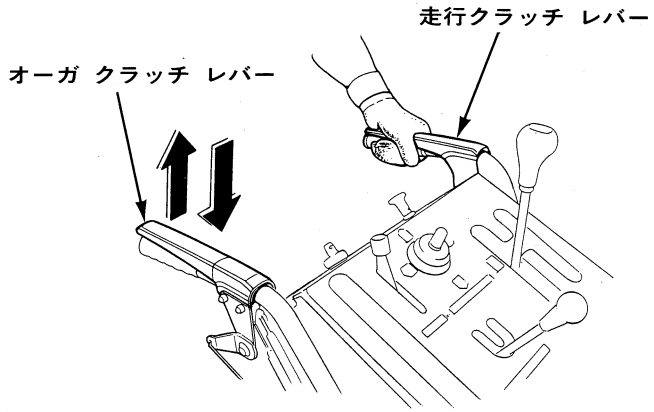
オーガ クラッチ レバーを握るとオーガ(除雪部)が回転します。レバーをはなせば止まります。



オーガ クラッチ レバーと走行クラッチ レバーを連動して作動させることができます。

走行クラッチ レバーとオーガ クラッチ レバー両方のレバーを握るとオーガ クラッチ レバーは回転の位置で固定され、オーガ クラッチ レバーから手を離しても除雪部は回転しつづけます。

走行クラッチ レバーから手を離すとオーガ クラッチ レバーも解除されて停止の位置に戻ります。



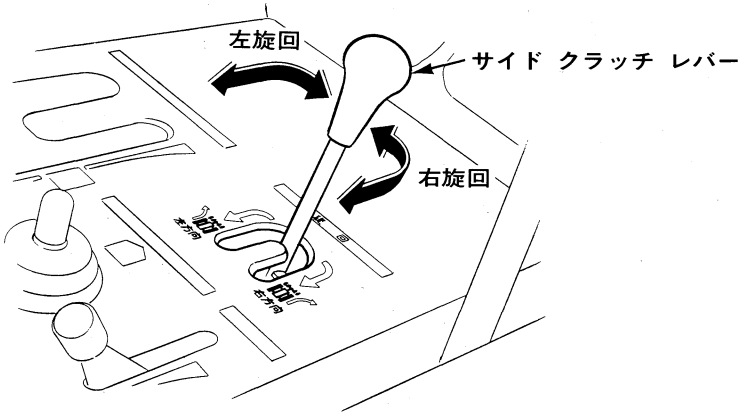
サイド クラッチ レバー

本機の方向を変えるときに操作します。

サイド クラッチ レバーを旋回しようとする方向に倒して引くと、引いた方向に本機は旋回します。

右旋回……サイド クラッチ レバーを右に倒して引きます。

左旋回……サイド クラッチ レバーを左に倒して引きます。

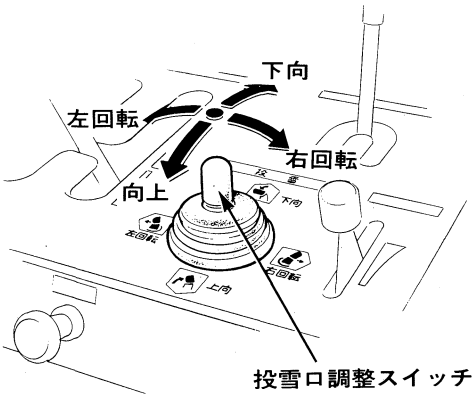


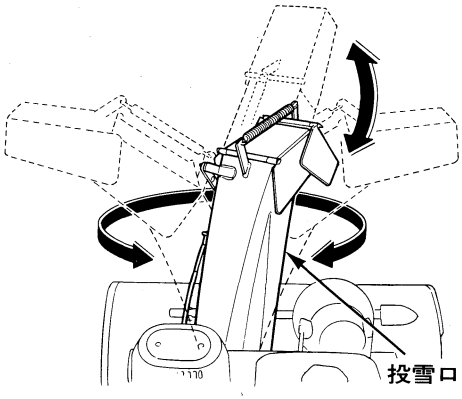
注意

- 旋回するときは十分スピードを落してください。
- サイド クラッチ レバーを操作するときは旋回する方向に人や物がないことを確認してください。
- 旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。

投雪口調整スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。
エンジン スイッチを〝ON〟の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上、下、左右に無段階に調整することができます。
投雪口調整スイッチはエンジンが運転している時に操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。

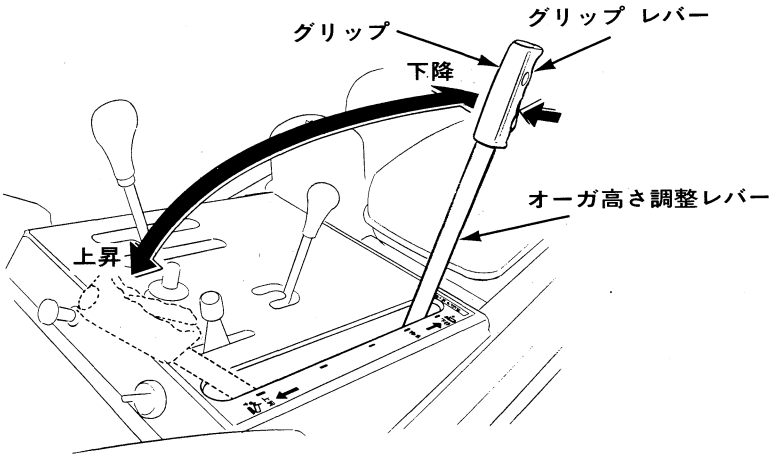




注意
・投雪距離や方向を変えるときは、人や物に十分注意して行ってください。
・万一バッテリあがり等で投雪口調整スイッチが働かなくなったときは51〜52頁の手順に従って調整を行ってください。

オーガ高さ調整レバー

除雪部の高さを調整するときに操作します。
除雪部の高さを５段階に調整することができます。



操作のしかた

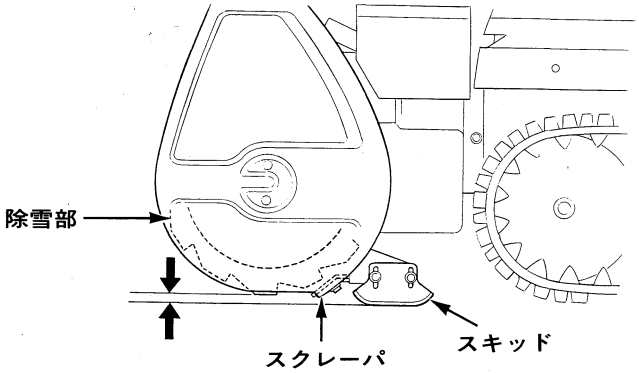
1. 右手でオーガ高さ調整レバーをしっかりささえ、グリップ レバーを握り、レバーのロックを解除します。(解除するときはオーガ高さ調整レバーを前方へ少し押しながら操作すると容易に解除することができます。)
2. 除雪する高さまでオーガ高さ調整レバーを動かし、グリップ レバーから手を離します。
3. オーガ高さ調整レバーを前後に動かし、レバーがロックされ動かないことを確認します。

注意

- オーガ高さ調整レバーは必ず本機を停止させ、除雪部の回転を停止させてから操作してください。
- 〝下降〟の位置からオーガ高さ調整レバーを動かすときは、一段一段ロックをかけながら移動してください。レバーが急激に戻される場合があります。
- オーガ高さ調整レバーを操作するときは、フレームに手や足をはさまれないよう注意してください。

スキッド・スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせて、除雪部と路面との高さを調整します。調整のしかたは、30頁を参照してください。。

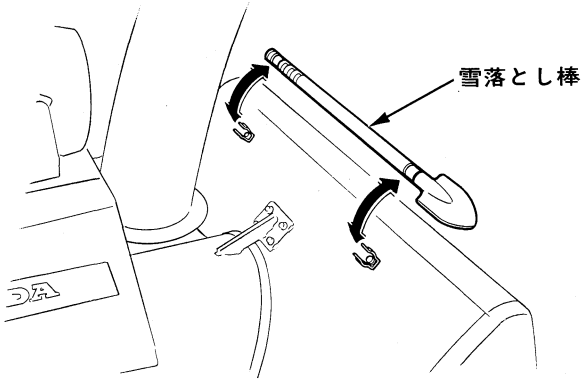


雪落とし棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。

> 注意　・雪落としを行う場合は、エンジンを停止し、プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから行ってください。

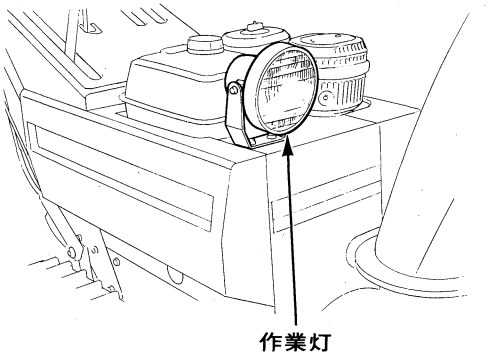
雪落とし棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取り付け位置にセットしてください。



作業灯

エンジン運転中に点灯し、エンジンを停止すると消灯します。

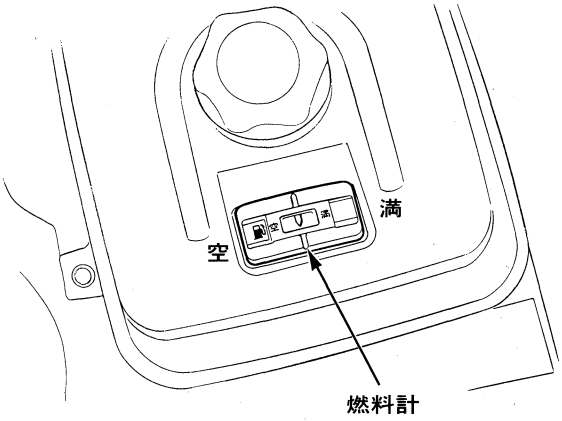
・エンジン スイッチを〝運転〟の位置にしただけでは点灯しません。



燃料計

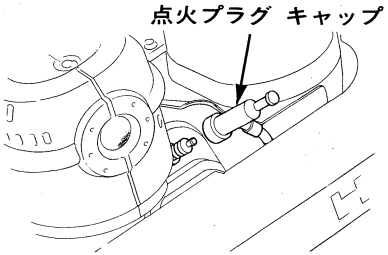
ガソリンの残量を示します。

燃料計の針が〝**空**〟に近づいたら早目に補給してください。



エンジンをかける前に点検しましょう

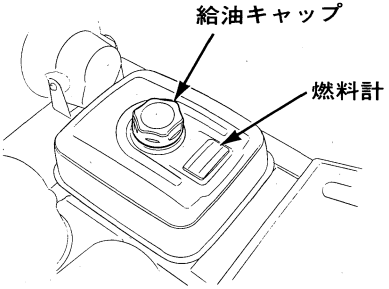
注意　点検は平担な場所で本機を水平にしてエンジンをとめ、点火プラグ キャップを外して行ってください。

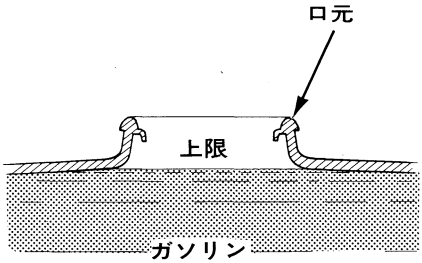


ガソリンの点検

点検

燃料計の針が〝**満**〟の位置にあるか確認します。少ない場合は給油キャップを外して補給します。





補給

使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

タンク容量：6.5ℓ

・給油キャップを外し、図の位置(上限)まで補給します。

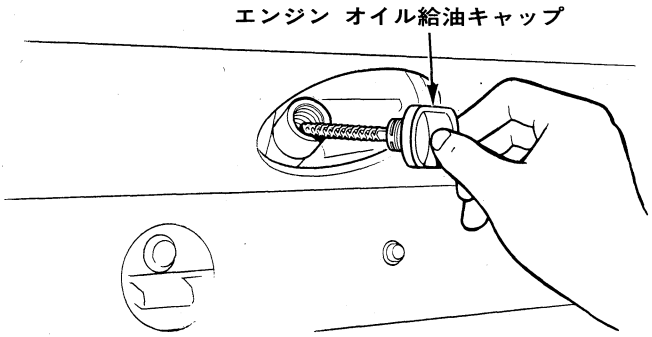
・補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

注意
- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 万一口元よりあふれた時は、こぼれたガソリンを布切れ等で速やかに拭きとってください。
- 降雪時ガソリンの補給を行う時は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。
  燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

エンジン オイルの点検

点検

エンジン オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。少ないときは、新しいオイルを補給します。



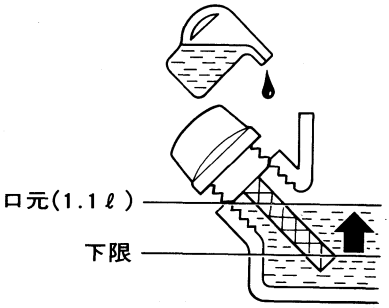
補給

推奨オイル：SAE 5 W—30

オイル容量：1.1ℓ

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は44頁参照)



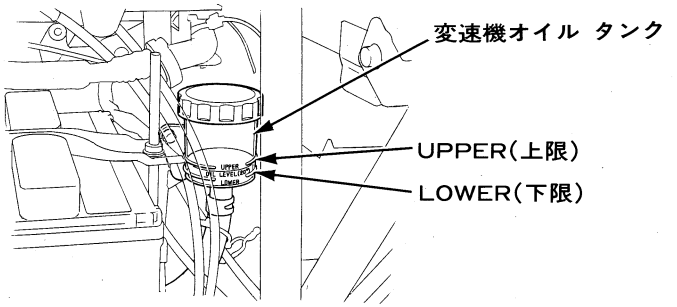
● キャップは、確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれます。

変速機オイルの点検

点検

変速機オイルの点検は除雪機が冷えている時に行ってください。

リヤ カバーを外して変速機オイル タンクのUPPER(上限)とLOWER(下限)の間にオイルがあるか確認します。



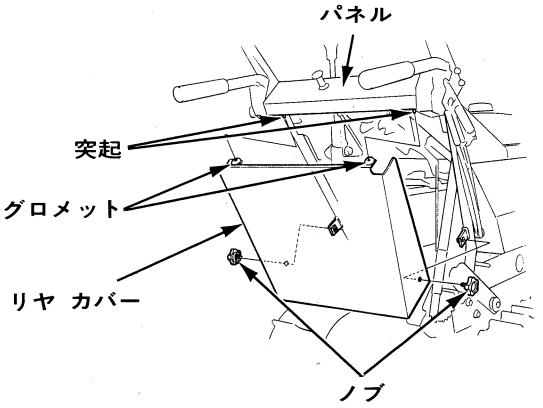
リヤカバーの外しかた

・左右のノブを外しリヤカバーを下の方向に引いて取外します。

リヤカバーの取り付けかた

1)パネルの突起にリヤカバーのグロメットを合わせリヤ カバーを取付けます。

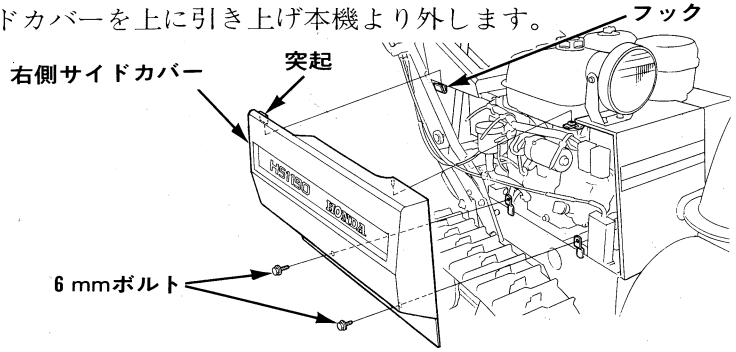
2)左右のノブを取付け、確実に締め付けます。



補給

補給は右側サイドカバーを外して行います。

1)右側サイドカバーの6㎜ボルト2本を同梱の10㎜スパナで外します。サイドカバーを上に引き上げ本機より外します。



2)給油キャップと内部のゴムキャップを外して、新しい変速機オイルをUPPER(上限)まで補給します。

3)補給後、確実にゴムキャップと給油キャップを取付けます。

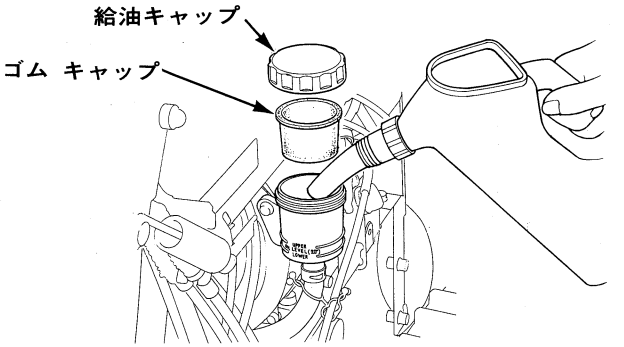
指定オイル：SAE5W-30

4)右側サイドカバーを取付けます。

・右側サイド カバーを取付ける時は、サイド カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

注意

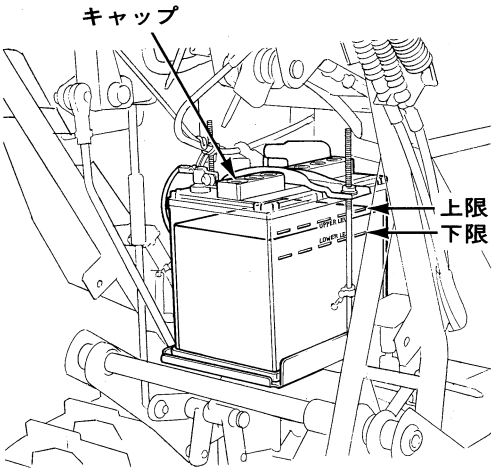
・補給時タンクの中にゴミ等の異物が入らないよう十分に注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因になります。
・変速機オイルが著しく減少している場合は、直ちに作業を中止し、お買いあげ販売店へご連絡ください。



バッテリの点検

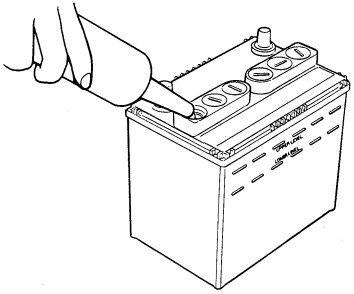
点検

リヤ カバーを開けて(22頁参照)バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



補給

少ないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは48頁を参照してください。

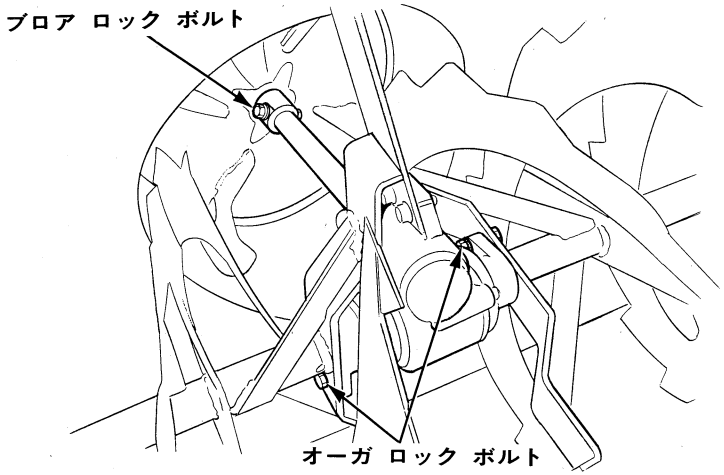


注意

- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。(但し、発電機には水をかけないでください。)
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

オーガ、ブロア ロック ボルトの点検

オーガ、ブロア ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
もし折れている場合は47頁の手順に従って交換してください。



その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

1.各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか

2.各部の作動状態

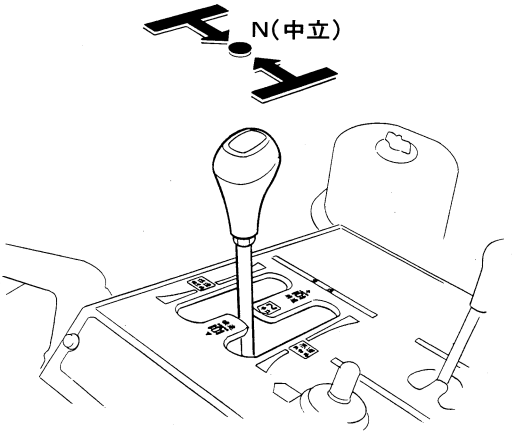
3.異常個所……前日悪かった所はないか

エンジンのかけかた

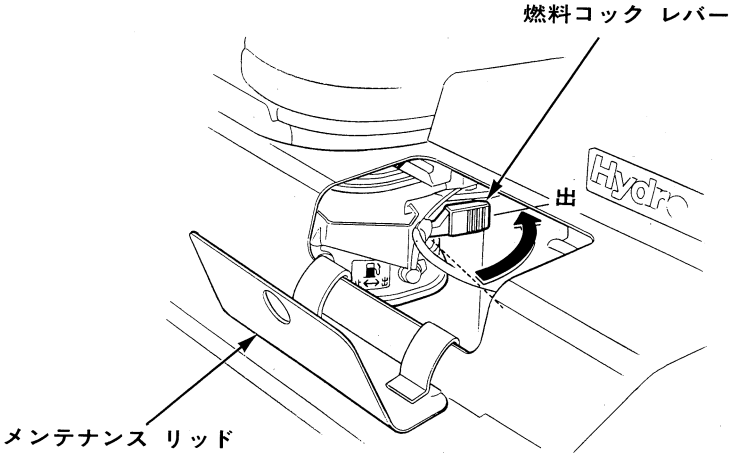
注意

・エンジンは平担な場所で始動してください。
急な坂道で変速レバーを〝N〟中立の位置にすると本機が空走する場合があります。返道でのエンジンの始動のしかたは29頁を参照してください。

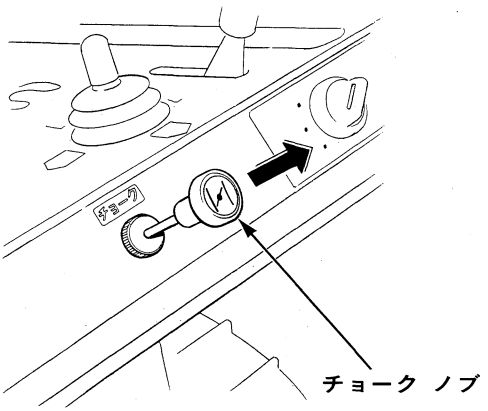
1.変速レバーが〝N〟中立の位置にあることを確認します。



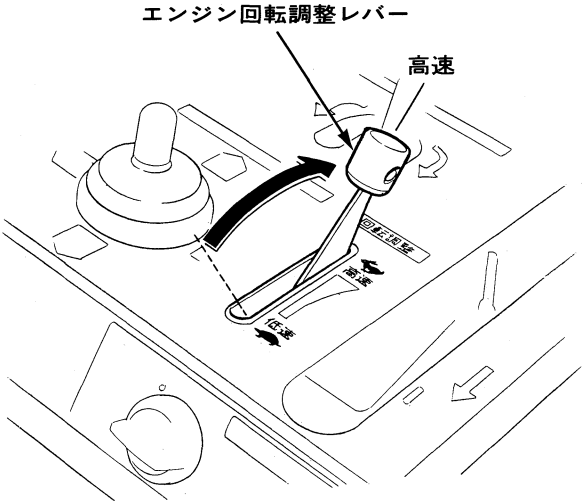
2.メンテナンス リッド(点検扉)を開け、燃料コック レバーを〝**出**〟の位置に合わせます。



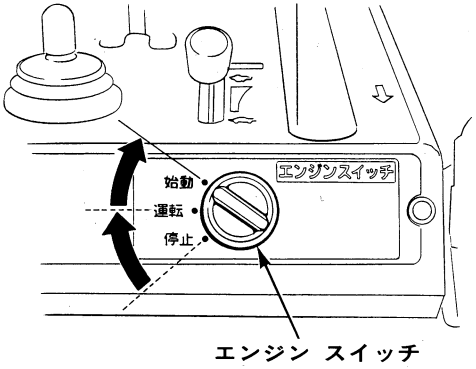
3.チョーク ノブをいっぱいに引いてください。



4.エンジン回転調整レバーを〝**高速**〟の位置にします。



5.エンジン スイッチを〝**始動**〟の位置まで回し、スタータをまわします。エンジンが始動したらスイッチから手を離し〝**運転**〟の位置に戻します。

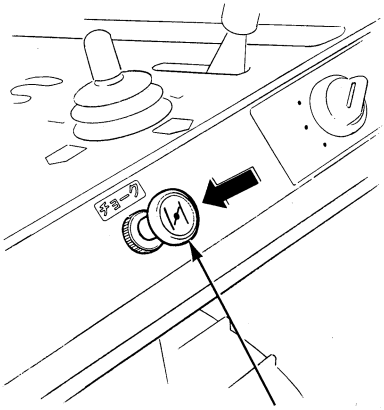


エンジン スイッチ

注意

- エンジン スイッチを操作するときは、オーガ クラッチ レバーと走行クラッチ レバーから手を離してください。レバーを握った状態でエンジンを始動すると本機が動き出し大変危険です。
- スタータを回して約5秒以内でエンジンがかからないときは、10秒ぐらい休んでから再び回してください。

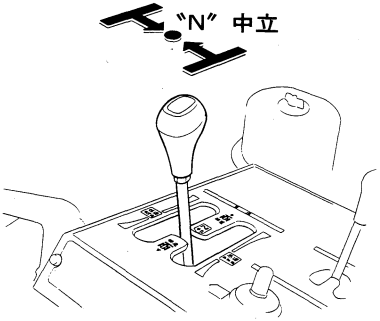
6.始動後、2～3分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらチェーク ノブを徐々に戻してください。



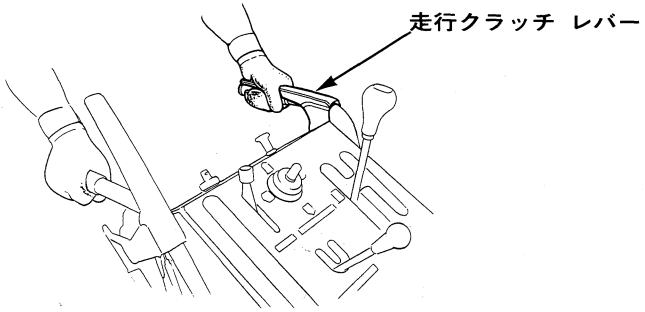
チョーク ノブ

7.暖機運転中に次の手順で変速機オイルの暖機を行ってください。

①変速レバーが〝N〟中立になっていることを、もう一度確認してください。

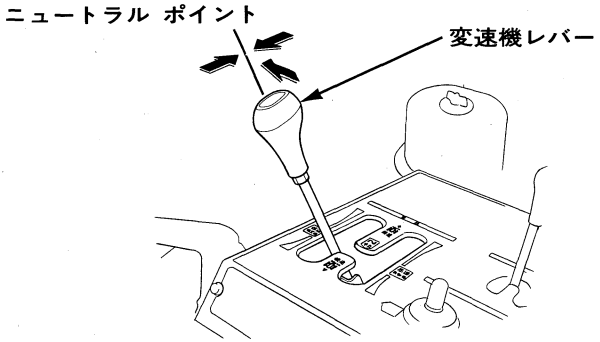


②約30秒ほど走行クラッチ レバーを握りつづけてください。



坂道でのエンジンのかけかた

変速機レバーを低速側のニュートラル ポイント(走行クラッチ レバーを握っても本機が動かない位置)にしてエンジンを始動してください。変速レバーを〝N〟中立の位置にすると、本機が空走することがあります。



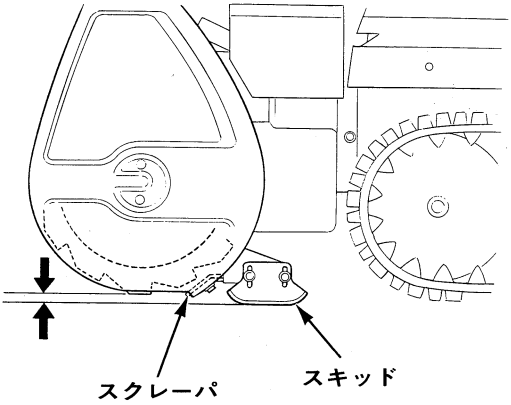
運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけは守りましょう〟の項目をよくお読みになり、除雪作業に取り掛かってください。

1.スキッド、スクレーパの調整

(1)エンジンを停止してエンジン スイッチ キーを抜きます。

(2)除雪する路面の状態に合わせて、ボルトをゆるめてスキッドとスクレーパの高さを調整します。



調整のめやす

	標準作業	段切作業 （くい込み作業）
スキッド	オーガ高さ調整レバーが〝標準〟位置のとき路面に接地	調整代上限まで上にあげる。
スクレーパ	オーガ高さ調整レバーが〝標準〟位置のとき路面とのすきまが５㎜になる位置	調整代上限まで上にあげる。

・スキッドは左右同じ高さに調整してください。

・調整後は必ずボルトを確実に締め付けてください。

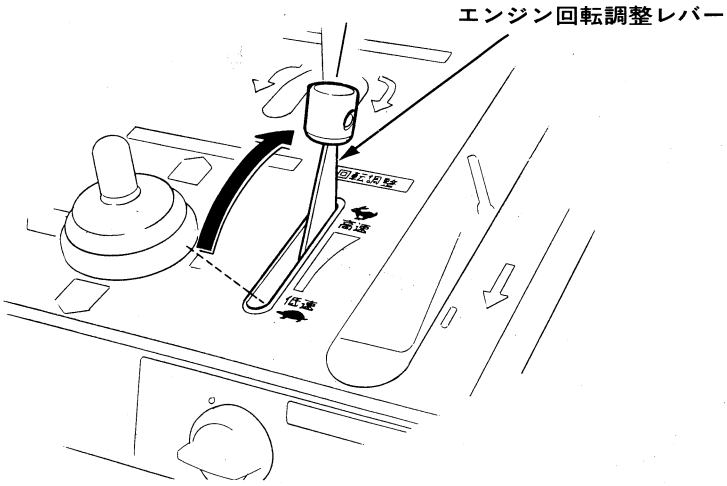
・段切作業用に調整した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

2.始動

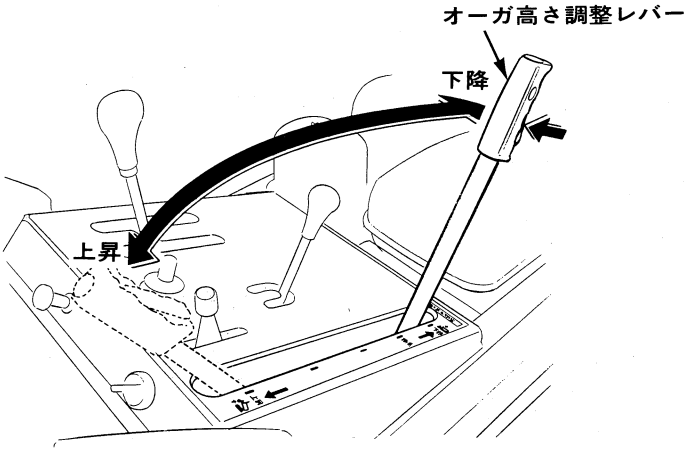
始動については26頁～29頁を参照してください。

3.運転操作

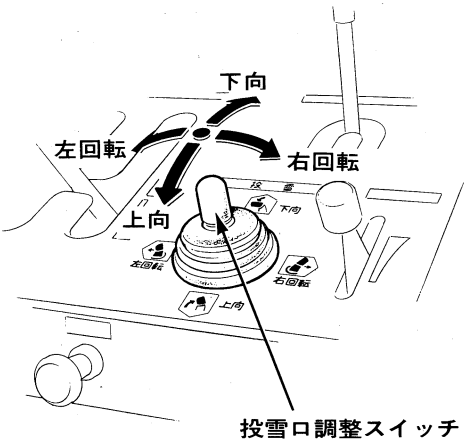
—1.変速レバーが〝N〟中立の位置にあることを確認し、エンジン回転調整レバーを〝**高速**〟にあわせます。

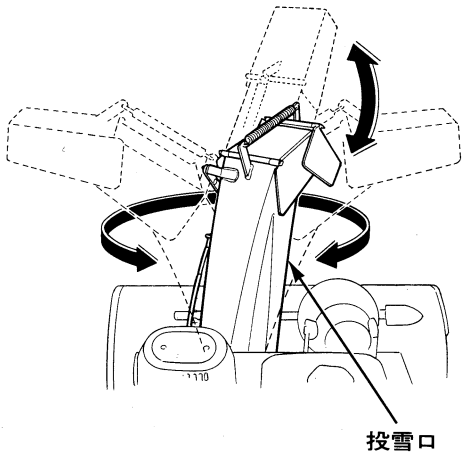


—2.オーガ高さ調整レバーで除雪部の高さを調整します。

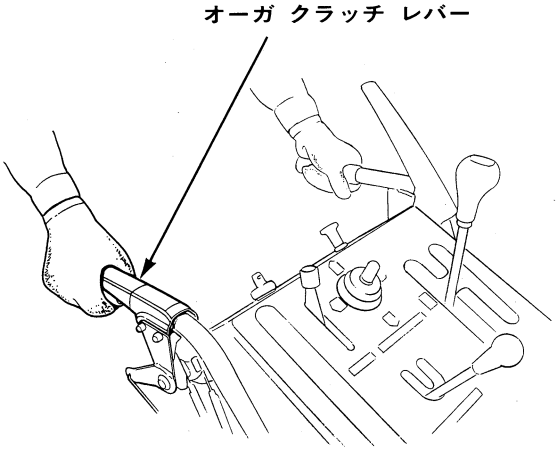


—3.投雪口調整スイッチで投雪距離と方向を調整します。



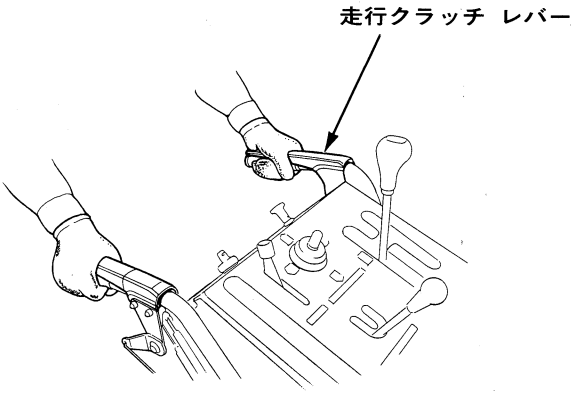


—4.オーガ クラッチ レバーを握り除雪部を回転させます。



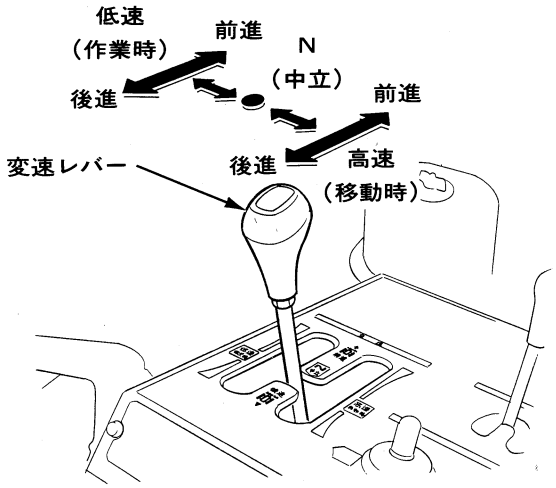
・移動の時は、オーガ クラッチ レバーを操作しないで走行クラッチ レバーのみ使用してください。

—5.走行クラッチ レバーを握ります。

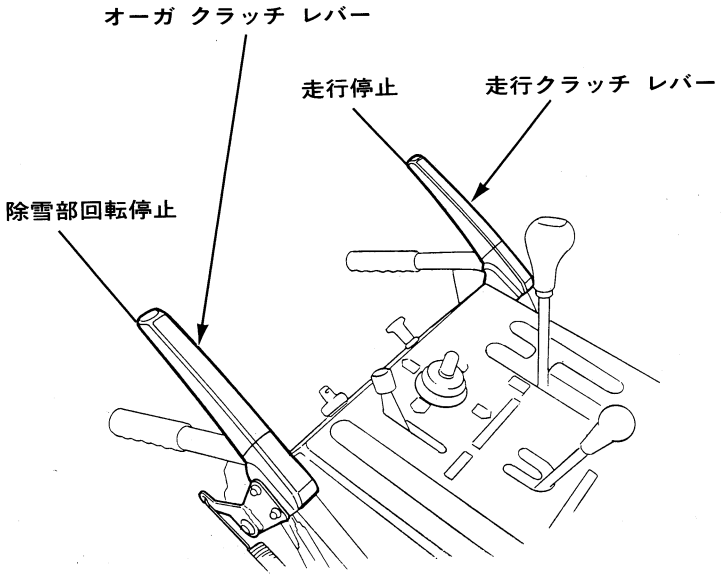


—6.オーガ クラッチ レバーから手を離し、雪質、積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。

・オーガ クラッチ レバーを離しても、オーガ クラッチ レバーが固定され、投雪と走行ができます。
この状態から走行クラッチ レバーを離せば、投雪と走行が停止します。



—7.オーガ クラッチ レバーと走行クラッチ レバーを単独で使用している場合は、それぞれのレバーから手を離すと、除雪部の回転または走行が停止します。

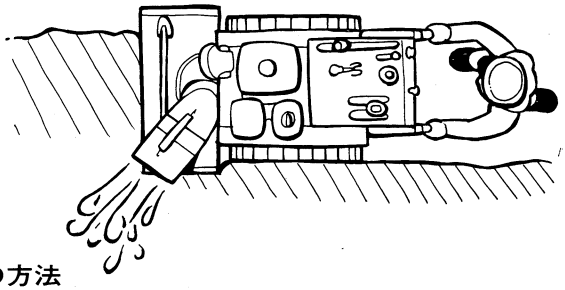


4.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。
変速レバーを低速(作業用)に入れ最適な速度に調整してください。変速レバーを高速(移動用)に入れて除雪作業を行うと変速機内の温度が上昇し破損の原因になります。除雪作業は低速(作業用)で行ってください。変速レバーを低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

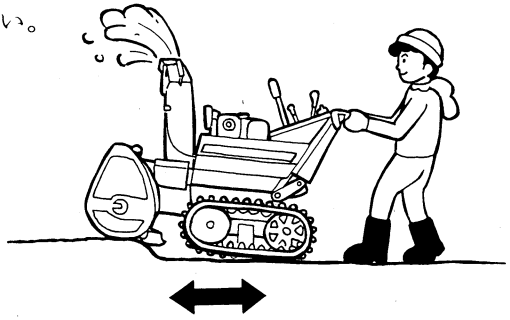
●除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなったりした雪の場合は速度を下げて除雪してください。またこのような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



●前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



注意　・後進時には足元に十分注意してください。

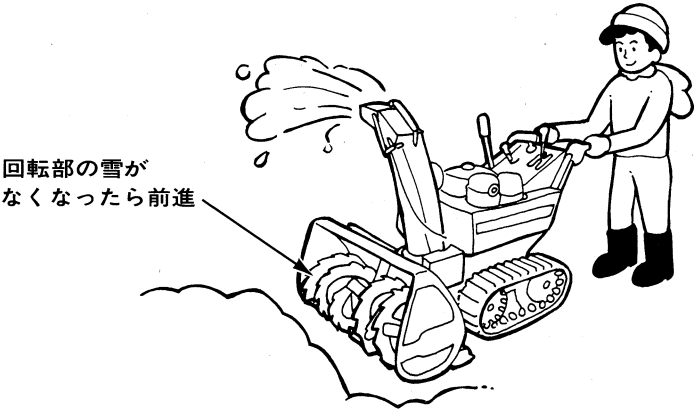
●断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、次の要領で除雪を行ってください。

(1)エンジン回転が回復するまで走行クラッチ レバーから手を離します。
（この時オーガ クラッチ レバーは握ったままにしておきます。）

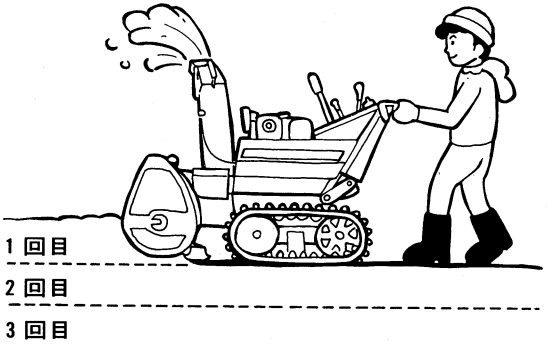
(2)除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら走行クラッチ レバーを握ります。
（車速は低速にしておきます。）

(3)再びエンジン回転が低下する場合には、(1)～(2)を繰り返して行います。



●段切除雪の方法

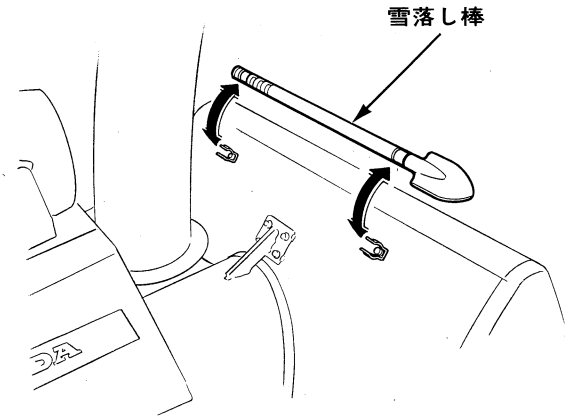
積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪してください。



・除雪作業中、投雪口に雪が詰ったときは、雪落し棒で除去します。

注意

・投雪口に詰った雪を除去するときは、エンジンを停止し、プラグ キャップを取り外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪落とし棒を使って雪を取り除いてください。

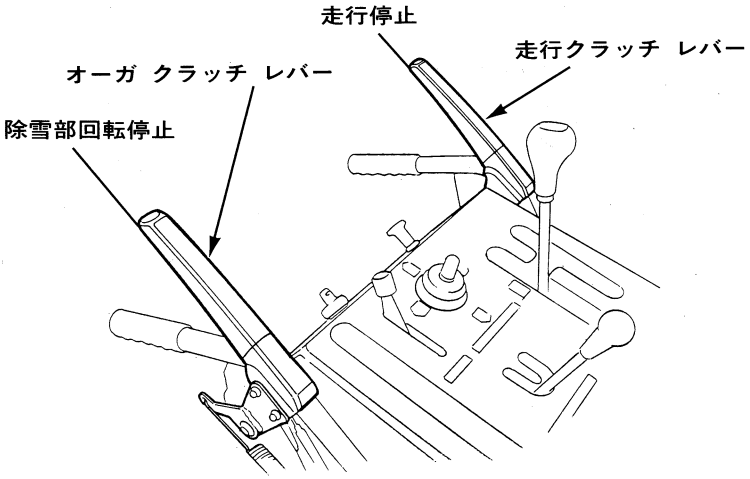


・雪落とし棒は使用後必ず元の位置にセットしてください。

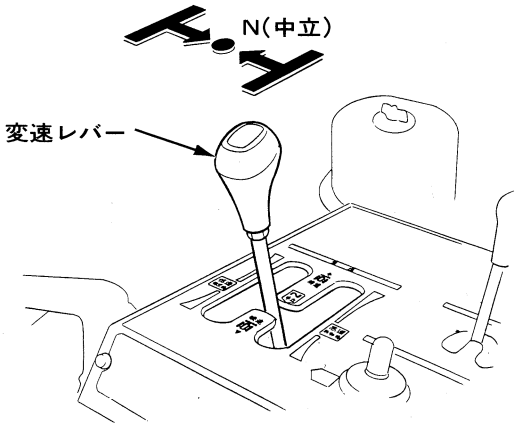
除　雪　機　の　止　め　か　た

注意　・除雪機は平担な場所に止めてください。

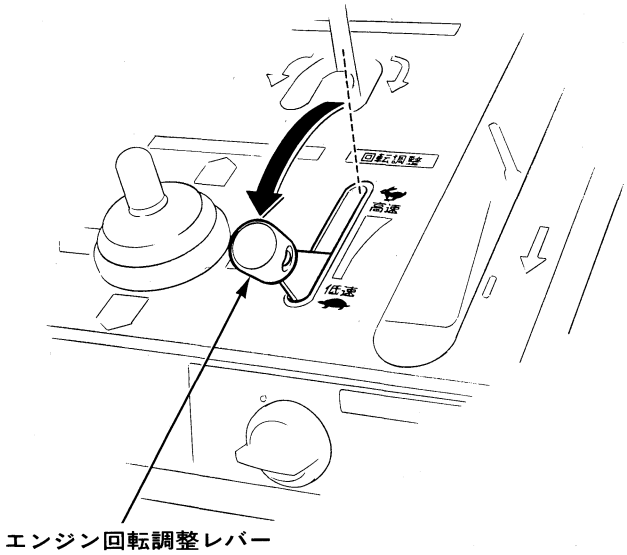
1.走行クラッチ レバー、オーガ クラッチ レバーから手を離します。走行が停止し、除雪部の回転が停止します。



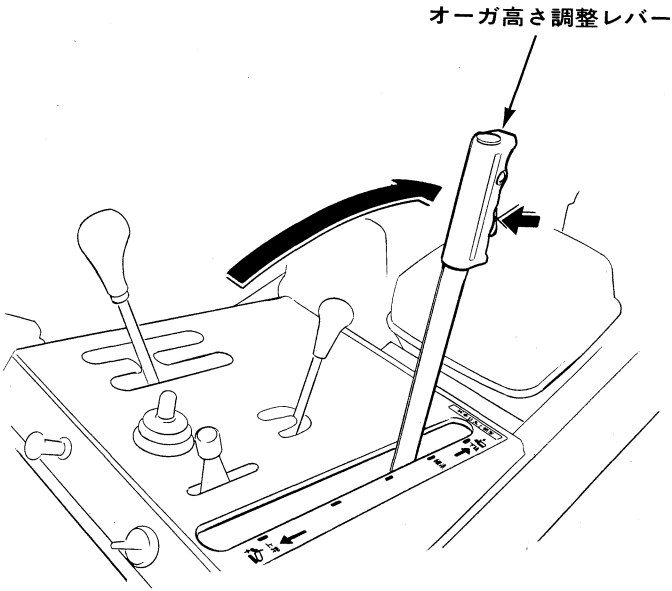
2.変速レバーを〝N〟中立の位置にします。



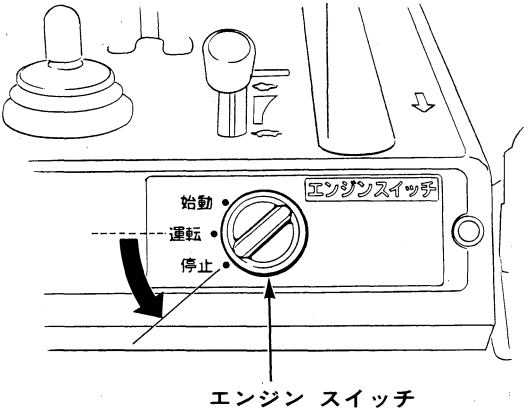
3.エンジン回転調整レバーを〝**低速**〟にします。



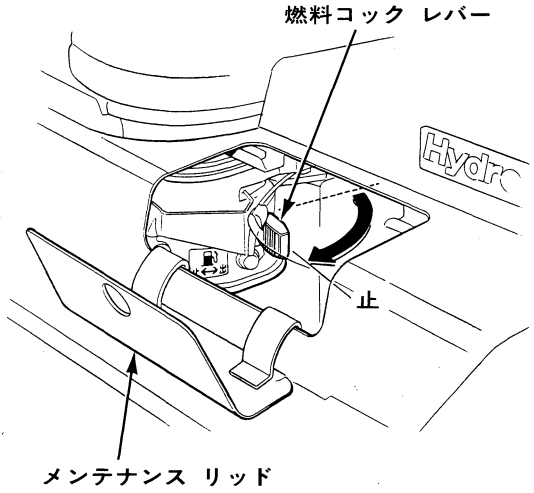
4.オーガ高さ調整レバーを調整して、除雪部を完全に路面へ接地させます。



5.エンジン スイッチを〝**停止**〟にして、キーを抜きます。



6.メンテナンス リッド(点検扉)を開け、燃料コック レバーを〝**止**〟の位置にします。

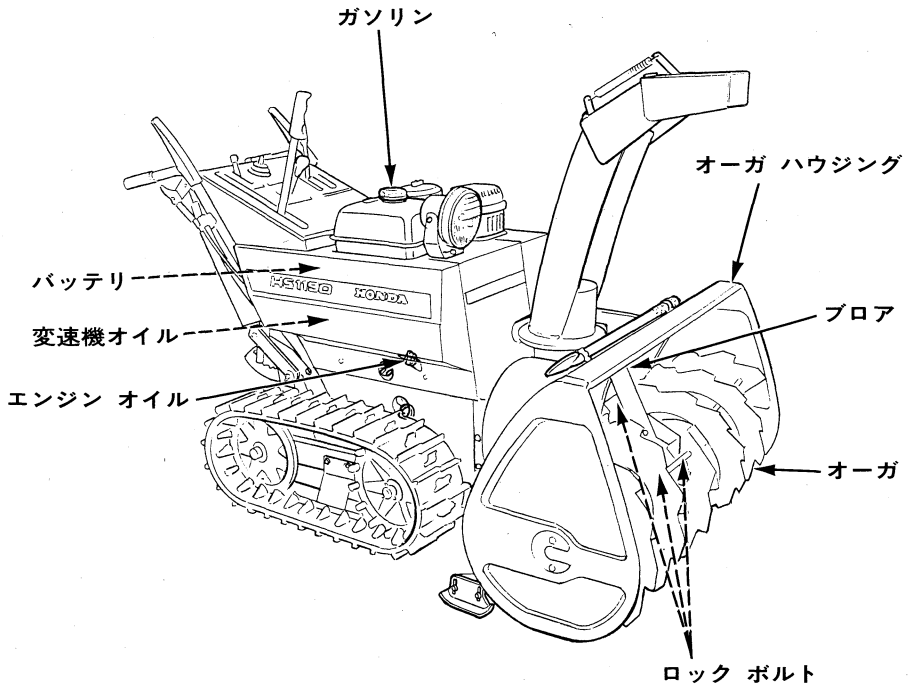


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／漏れはないか。}
- ガソリン……残量
- 各部の締付け……ゆるみ、ガタはないか。
- バッテリ液……レベルまであるか。
- オーガ、ロック ボルト、ブロア、オーガ ハウジング等の損傷については特に点検を行ってください。
- 異常個所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

点検項目＼点検時間		作業前点検	初回20時間目	除雪時期初めの点検	（毎年）終りの点検	2年毎	4年毎
エンジンオイル	点検	○					
	交換		○	◎			
変速機オイル	点検	○					
オーガ、ブロアロックボルト	点検	◎					
バッテリー液	点検	○					
	比重			◎※			
点火プラグ	点検			◎			
走行ベルト	点検調整			◎※			
オーガベルト	点検調整			◎※			
オーガブレーキ	点検			◎※			
クローラ	点検調整			◎			
オーガ、走行クラッチワイヤ	点検調整			◎※			
サイドクラッチワイヤ	点検調整			◎※			
シュータガイドコントロールワイヤ	点検調整			◎※			
スロットル、チョークワイヤ	点検調整			◎※			
燃料ろ過カップ	清掃				○		
キャブレータ、燃料タンク	燃料抜き				○		
ボルト、ナット類	締付点検				○		
格納時の各部防錆	塗油				○		
燃料チューブ	点検					○※	
	交換						○※
ミッションオイル	交換					◎※	
オーガミッションオイル	交換					◎※	
吸入、排気弁すき間	点検調整						○※
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃						○※

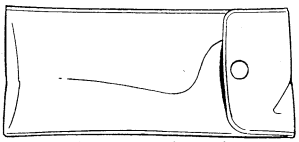
◎印は消耗品であり、使用条件により交換時期が変わります。損傷等異常がある場合には早めに交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要とします。お買いあげ販売店へお申し付けください。

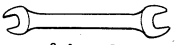
携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

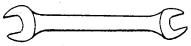
同梱工具



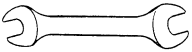
ツール バッグ



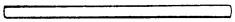
スパナ 10×12



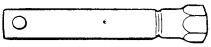
スパナ 10×14



スパナ 12×14



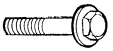
プラグレンチ ハンドル



プラグ レンチ

付属部品

ブロア ロック ボルト



8 mm六角ボルト
（5）



座面付六角ナット
（5）

オーガ ロック ボルト



六角ボルト(10)



ワッシャ(10)



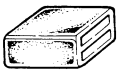
ナット(10)



ローラ ピン



割ピン



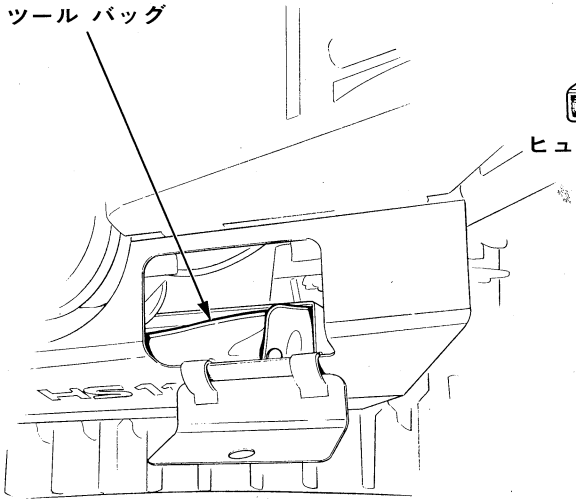
ヒューズ ホルダ



ヒューズ
5 A



ヒューズ
20A



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回20時間目、以後：年一回除雪時期の初め

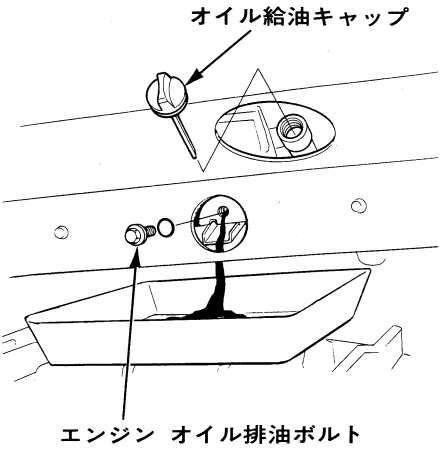
《推奨オイル》

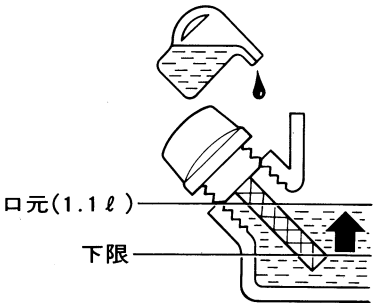
SAE5W—30またはAPI分類SE級相当のエンジンオイル

《規定量》 1.1ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締めつけます。
3. 新しいエンジン オイルを口元まで注入します。
4. 注入後キャップを確実に締めつけます。





注意

・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

年一回初めの点検

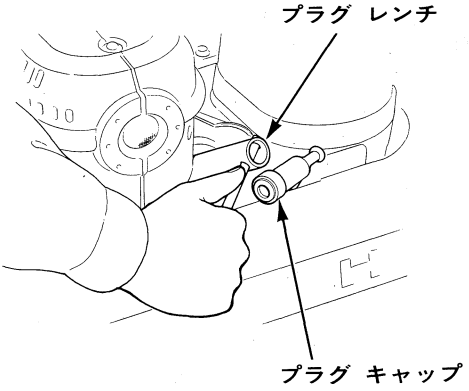
《清掃のしかた》

1.プラグ キャップを取り外してください。

2.プラグ レンチ(同梱工具)で点火プラグを取り外します。

3.プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

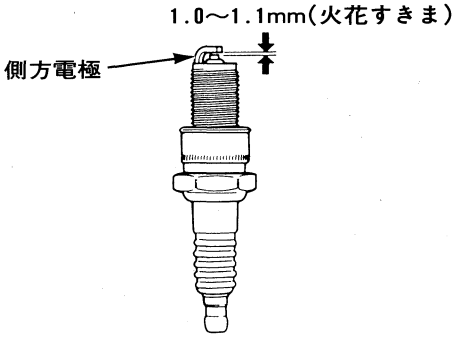
・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調 整》

〈調整のしかた〉

側方電極を曲げて火花すきまを1.0～1.1㎜に調整します。



《指定プラグ》

BP5ES—11　(NGK)

W16EP—U11　(ND)

注意

・指定以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
・点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年一回初めの点検

《点検のしかた》

クローラ中央部を強く(約10kg)押した時たるみが18～22㎜になっているか点検します。

《調整のしかた》

1.テンション ボルトのロック ナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。

右に回わすと→クローラは張ります。

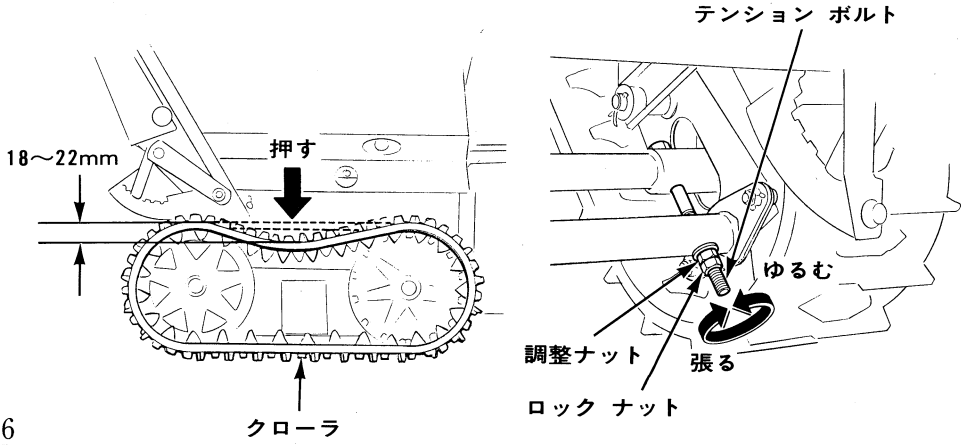
左に回わすと→クローラはゆるみます。

2.たるみが規定量になるように調整してください。

3.調整後確実にナットを締付けてください。

4.左右同じ方法で点検、調整してください。

注意 ・クローラ ゴムが凍結している時は正しい張り調整ができません。必ず凍結を取り除いてから調整してください。



除雪部の点検

オーガ、ロック ボルト、オーガ ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。

オーガ、ブロアのロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック ボルトと交換してください。

ロック ボルトの交換方法

1.本機を平坦な場所に水平に止めてください。

2.オーガ クラッチ レバー〝止〟、走行クラッチ レバー〝止〟にしてください。

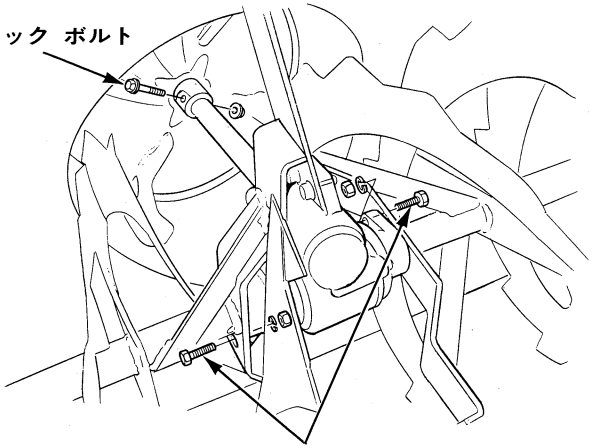
3.変速レバーを〝N〟(中立)にしてください。

4.エンジン スイッチを〝**停止**〟にしつ、プラグ キャップを外して各回転部が停止している事を確認してください。

5.オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金等)を取り除きます。

6.除雪部を点検してください。

7.折れたロック ボルトを取り除き、新しいロック ボルト、ナットと交換し、確実に締め付けてください。。



バッテリ

《端子の手入れ》

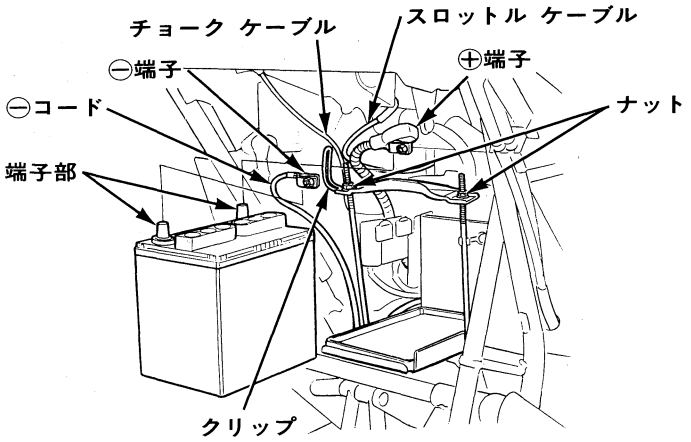
端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ ブラシかサンドペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

注意

- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となりおす。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこべした時には、必ず水洗いをしてください。
- バッテリを取扱うときはシュートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が浸されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

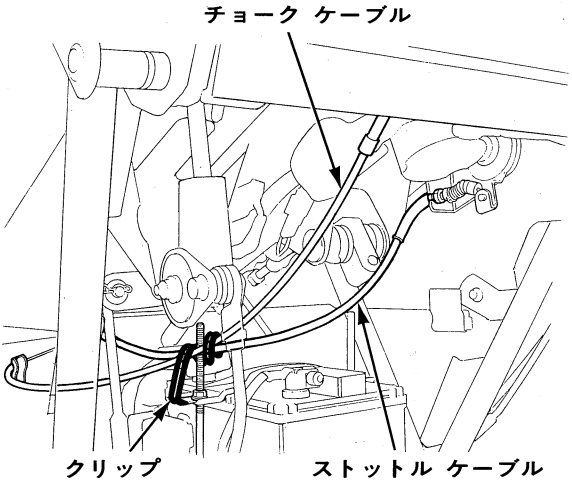
バッテリの取外し・取付け

1.バッテリの㊀端子の接続を外します。
2.バッテリの㊉端子の接続を外します。
3.クリップを外し、チョーク ケーブルとスロットル ケーブルを外します。
4.ナットをゆるめて、バッテリを引き出します。



5.逆の手順で取付けます。

・クリップは下の図のように取付けてください。



注意

・バッテリケーブルの接続は、必ず⊕端子を先に次に⊖端子を接続してください。
・バッテリを充電するときは、本機から外して充電してください。

ヒューズについて

ヒューズが切れたらその原因を調べてから規定容量(5A、20A)のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

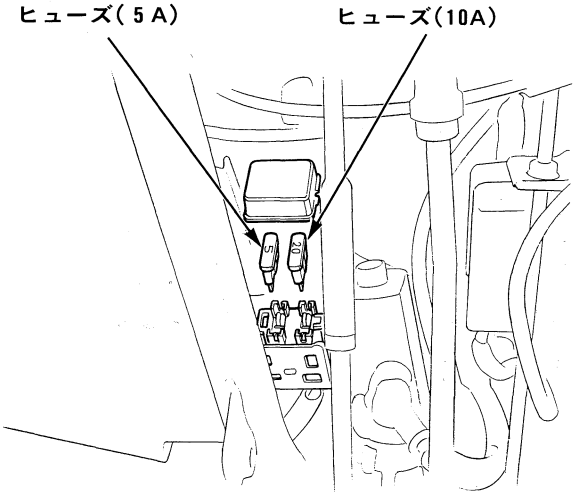
注意

・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1.リヤ カバーを開けてください。(22頁参照)。

2.切れたヒューズを新品のヒューズ(5A、20A)と交換してください。

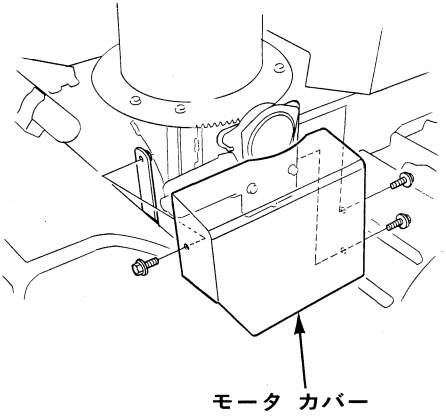


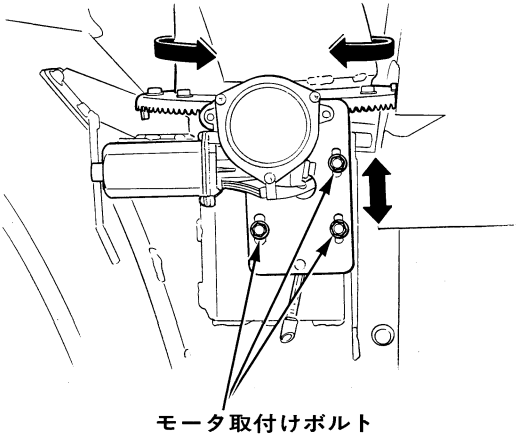
投雪口が作動しないときは

投雪口が作動しなくなったときは、次の手順で応急処置を行ってください。
リヤ カバーを開けてヒューズに異常がないか確認してください。(50頁参照)。
ヒューズに異常がない場合は投雪方向と距離を次の手順で調整してください。

投雪方向(左右)の調整

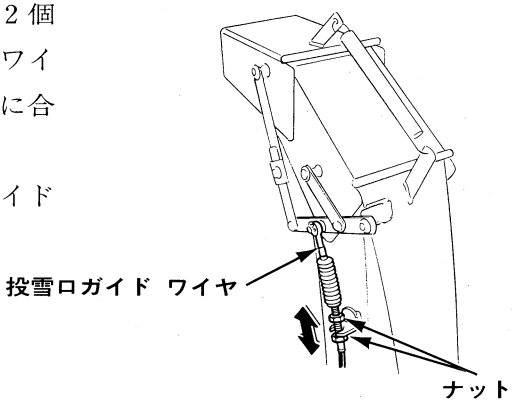
1) 3本のボルトを外しモータカバーを外します。
2) 3本のモータ取付けボルトをゆるめ、ギヤのかみ合いを外します。
3) 作業に合った位置まで投雪口を回し、モータを持ち上げてギアをかみ合わせます。
4) モータ取付けボルトを締め付けます。
5) モータ カバーを取付けます。





投雪距離(上下)の調整

1)ガイド ワイヤのナット 2 個をゆるめ、投雪口ガイド ワイヤを上、下にずらし作業に合った位置に合わせます。
2) 2 個のナットを締めてガイドワイヤを固定します。



・除雪作業が終ったら、直ちにお買いあげ販売店で点検、修理を受けてください。

運　搬　す　る　時　は

アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

《積み降ろしをする前に》

1.積み降ろしは平担な場所で行ってください。

2.使用するアユミ板の、許容荷重を確認してください。

本機の総重量：約300kg

3.下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなあゆみ板を選んでください。



アユミ板の長さ(ℓ)	2.5m	3.0m	3.5m
地面からアユミ板までの高さ(h)	50cm	60cm	70cm

4.幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。最低1.5mの高さが必要ですが、もし高さが不足している場合はあらかじめ投雪口を外してください。

5.燃料が十分あるか確認してください。〝**空**〟に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

①アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。

②エンジンを始動し、オーガ高さ調整レバーで、オーガを最上位置まで上げます。

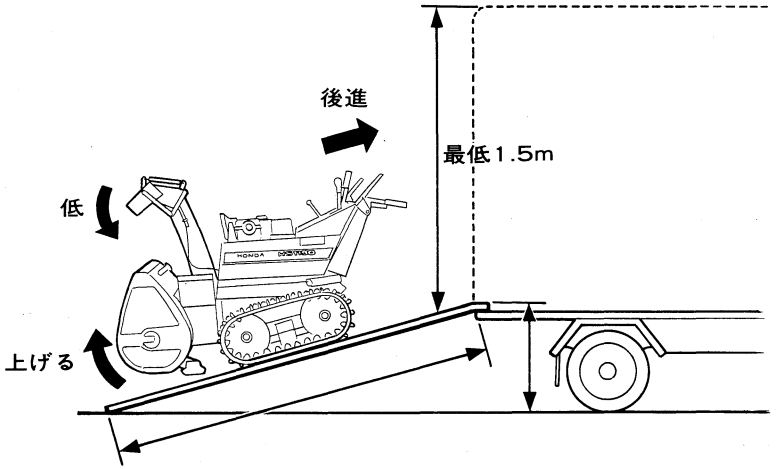
③投雪口調整スイッチで投雪口を下までいっぱいに下げます。

④変速レバーを低速(作業用)、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。

⑤除雪部が幌などに当たらないよう注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

注意

・アユミ板の上を移動しているときは、サイド クラッチ レバーを絶対に操作しないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。また途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーをニュートラル ポイント(走行クラッチ レバーを握っても本機が動かない位置)にして再始動してください(29頁参照)。変速レバーは〝N〟中立の位置にしないでください。本機が空走することがあります。



長期間使用しない時の手入れ

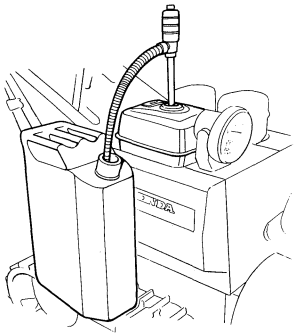
降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

保管するときはエンジン スイッチ キーを外してください。

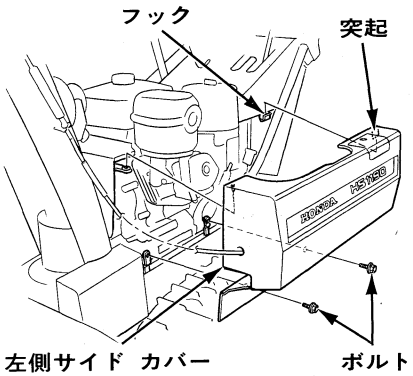
1.燃料タンク、気化器(キャブレータ)のガソリンをぬきます。

〈ぬきかた〉

1.燃料タンク内のガソリンを抜きます。

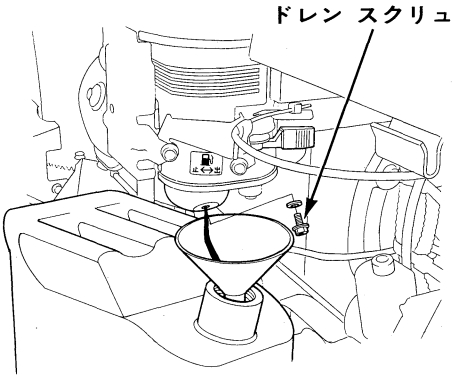


2.左側サイド カバーのボルト2本を外します。
左側サイドカバーを引き上げて外し、クローラの上に置きます。



3.燃料コック レバーを〝**出**〟に合わせます。

4.気化器のドレン スクリュを外してガソリンを容器に受けます。

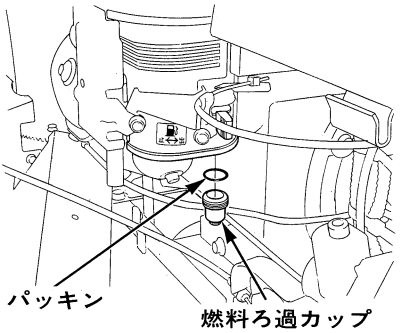


5.完全にぬけたらドレン スクリュを取付け確実に締めます。
6.燃料コック レバーを〝止〟にします。
7.左側サイド カバーを取付けます。
・左側サイド カバーを取付けるときは、サイド カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

注意 ・燃料をぬくときは火気厳禁。
・ぬいた燃料は十分に注意して保管してください。

2.燃料ろ過カップの清掃

①左側サイド カバーを外します。
②カップを外し洗油で洗浄します。
③パッキン、カップを取り付け確実に締めつけます。
④左側サイド カバーを取付けます。



注意 火気厳禁

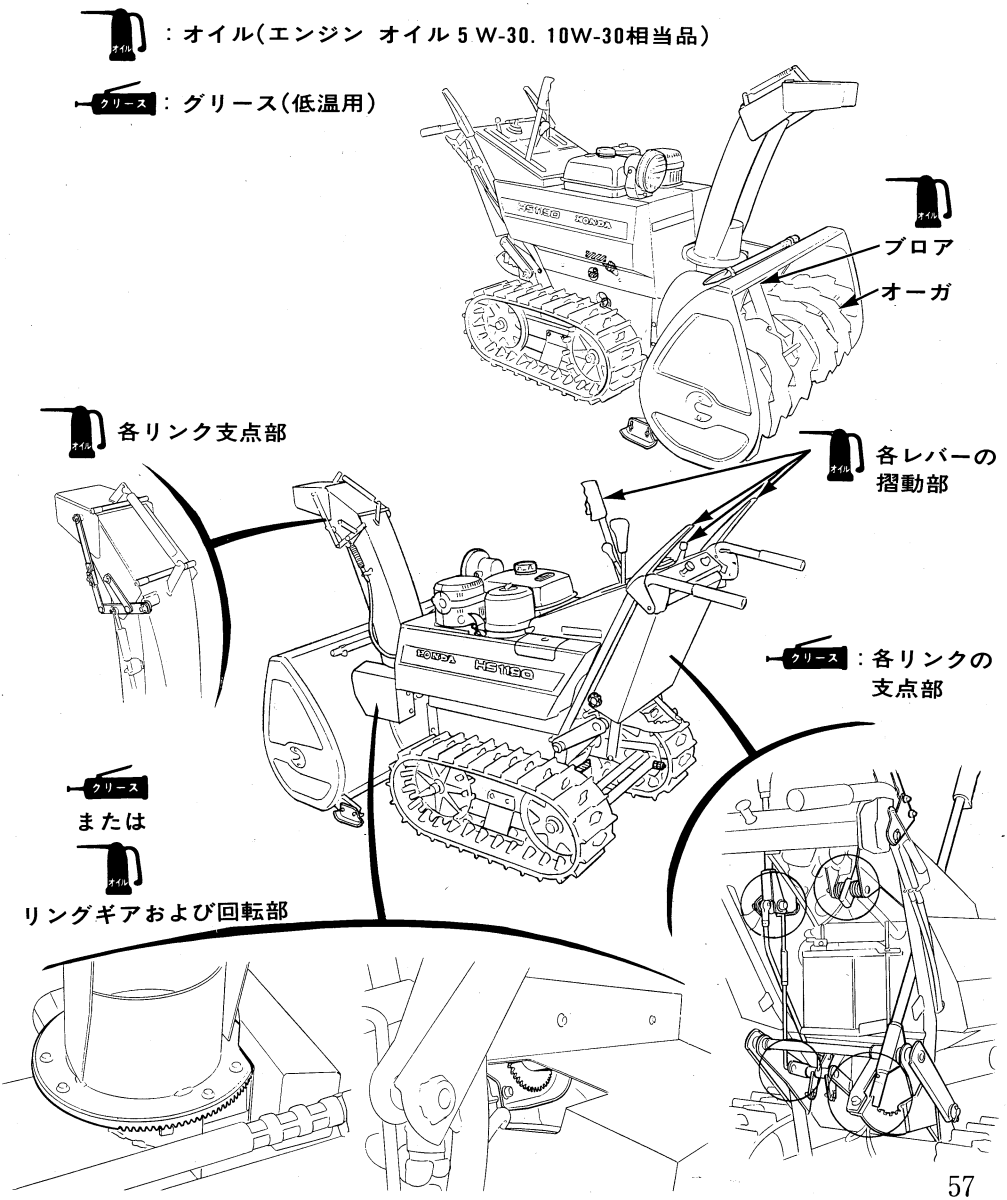


3.バッテリの手入れ

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください(48頁参照)。
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。
充電器は市販の充電器(12V用)をご使用ください。
充電時間：1.3Aで約10時間(標準)

4.保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後回転部、摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

・始動方法は、取扱説明書どおりですか？
・ガソリンはありますか？
・燃料コック レバーは〝**出**〟の位置になっていますか？
・オイルは規定量ありますか？
・走行クラッチ レバー、オーガ クラッチ レバーは〝切〟の位置になっていますか？
・点火プラグから火花が出ますか？
プラグ キャップを外し点火プラグを取り外して、プラグ キャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)エンジン スイッチを〝**始動**〟にします。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

～～～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確めましょう～～～～～～～～～

主　要　諸　元

名　称	ホンダ スノーラ　HS1190
型　式	SZAH

エンジン

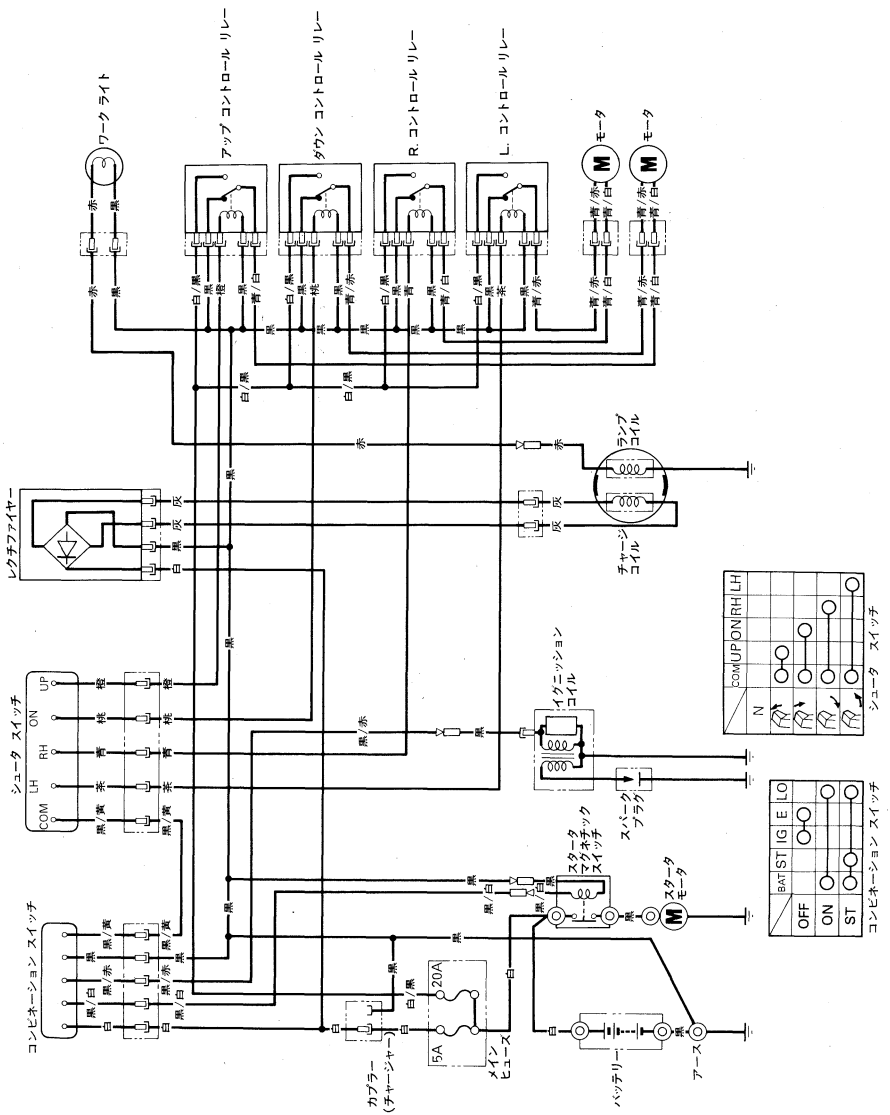
名　称	ホンダ GX340
最高出力	11.0HP/3600r.p.m
排気量	337cm³
内径×行程	82×64mm
始動方式	セルフ スタータ
点火方式	CDI
オイル容量	1.1ℓ
燃料タンク容量	6.5ℓ
点火プラグ	BP5ES-11(NGK)．W16EP-U11(ND)

フレーム

全長	1,710mm
全幅	935mm
全高	1,340mm
乾燥重量	207kg
除雪幅	920mm
除雪高	580mm
投雪距離	最大18m(雪質および投雪方向により異なります。)

注意．諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承ください。

配　線　図


ワーク ライト
アップ コントロール リレー
ダウン コントロール リレー
R. コントロール リレー
L. コントロール リレー
モータ
モータ
レクチファイヤー
ランプ コイル
チャージ コイル
シュータ スイッチ
イグニッション コイル
スパーク プラグ
スターター マグネチック スイッチ
スターター モーター
コンビネーション スイッチ
カプラー (チャージャー)
メイン ヒューズ
5A
20A
バッテリー
アース
シュータ スイッチ
コンビネーション スイッチ

HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30766601
00X30-766-6011

Ⓝ5009010